

1月26日「SGIの日」

導入部

1月26日は「SGIの日」です。SGI（創価学会国際）は、1975年のこの日に発足しました。本格的な世界広布の時代の幕開けを記念するこの日の意義を、学んでいきましょう。

1枚目／歴史的な「世界平和会議」の開催（8枚目の絵の裏に貼る）

1975年1月26日、世界51カ国から158人の代表がグアム島に集い、「世界平和会議」が開催されました。

この会議の席上、SGI（創価学会国際）が発足し、池田先生がSGI会長に就任されました。この日を記念して1月26日が「SGIの日」と定められました。

2枚目／なぜグアムから出発したのか？（1枚目の絵の裏に貼る）

太平洋戦争で激しい戦闘が行われたグアム島では、アメリカ兵1400名、日本兵2万名が命を落としています。

SGIは戦争による悲劇の地を、あえて出発の地として選んだのです。そこには、“仏法を基調にした平和運動によって、真の世界平和を達成してみせる”という決意がこめられています。

3枚目／国籍欄に「世界」と記した池田先生（2枚目の絵の裏に貼る）

発足の日の「世界平和会議」では、会議出席者全員の署名が行なわれました。その署名の「国籍欄」に、池田先生は日本ではなく「世界」と記されました。

この日に発表された池田先生の「平和宣言」には、次のようにあります。

「2度まで世界戦争を体験した20世紀に生きる者にとって、来るべき21世紀を、最大に人間が謳歌される世紀——すなわち生命の世紀とすることこそ、後に続く世代に対する最大の義務である」

4 枚目 / SGIメンバーへの「不滅の指針」 (3枚目の絵の裏に貼る)

「世界平和会議」の席上、池田先生は、あいさつの中で次のように参加者を激励されました。

「皆さん方はどうか、自分自身が花を咲かせようという気持ちでなくして、全世界に妙法という平和の種をまいて、その尊い一生を終わってください。私もそうします」

この激励は、各国のSGIメンバーたちの「不滅の指針」として、語り継がれています。

世界平和のための種となり、土となろう——この決意こそ、SGIの根本精神といえます。

5 枚目 / SGI憲章の制定 (4枚目の絵の裏に貼る)

1995年11月、SGIの理念と行動の規範を定めたSGI憲章が制定されました。

SGI憲章は、日蓮大聖人の「人間主義」の仏法にもとづいて、「世界市民の理念」「寛容の精神」「人権の尊重」を掲げ、「非暴力」と“対話”で人類社会に貢献することがうたわれています。

具体的には、「それぞれの国・社会の良き市民として、社会の繁栄に貢献する」として、SGIが平和・文化・教育などの分野で、積極的に社会に貢献することを定めています。

6 枚目 / 池田先生の手で世界に広がったSGI (5枚目の絵の裏に貼る)

創価学会を創立した初代会長・牧口常三郎先生と第二代会長・戸田城聖先生は、戦時中の日本の軍国主義と戦い、全人類の平和と幸福のために、広宣流布の基礎を築かれました。

その広布の流れを、世界へと開かれたのが第三代会長である池田先生です。池田先生は、会長就任直後から、海外の学会員の激励に奔走し、SGIメンバーに温かい励ましを送り続けています。池田先生の手で、SGIの連帯は、いまや世界192カ国・地域に広がり、世界広布への確かな基盤が築かれたのです。

7枚目／“よき市民”の連帯・SGI（6枚目の絵の裏に貼る）

SGIメンバーは、日々、信心の實踐に励みながら、それぞれの国の“よき市民”として、社会と地域に貢献するさまざまな活動を行っています。

たとえば、アメリカSGIで行ったVOV（ビクトリー・オーバー・バイオレンス＝暴力に打ち勝つ）運動など、平和と非暴力の思想を広める運動。ボリビア・ドミニカ共和国・カナダ・フィリピンSGIの植樹など、地球環境を守るための活動。ブラジルSGIの成人識字教育運動など、教育への貢献。これらの活動は、国連や各国の政府などからも賞賛され、SGIの社会貢献に対して、数多くの顕彰が寄せられています。

8枚目／広宣流布に闘う誇りと使命（7枚目の絵の裏に貼る）

SGI発足の日の池田先生のスピーチには、次のような一節があります。

「この会議は、小さな会議かもしれない。また各国の名もない民衆の集まりかもしれない。しかし、幾百年後には、この会合が、歴史に燦然と輝き、みなさんの名前は、仏法広宣流布の歴史に、厳然と刻まれていくことを確信します」と。

私たち一人ひとりもまた、池田先生とともに、広宣流布を目指し、世界の平和のために闘う“善の連帯”の一員です。その“誇り”と“使命”を胸に、世界192カ国・地域に広がるSGIの友と手を携えて、朗らかに前進していきましょう。

決意など